
夏の風景

ツグ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏の風景

【Nコード】

N3362P

【作者名】

ツグ

【あらすじ】

家から帰ってきた夫と妻の会話

その日も夏らしい、晴れた空に唸るような暑苦しい天候だった。

ぎらぎらと照りつける太陽のせい、汗っかきの体質である俺は家に帰りつくまでにシャツをびちょびちょに濡らしてしまった。

毎年、毎年、「今年は例年より暑いでしょう」とかいうニュースキャスターを俺は心底、信じていない。夏なんてもんは、ただ暑いんだ。それに毎年だか、例年だかの差なんてない。ただ暑いんだよ！玄関のドアを開けようと鍵をさしこんだとき妙だった。

鍵を抜いてドアノブに手を伸ばしたとき、勝手にドアのほつが開いてしまった。

「あなた、おかえりなさい」

「え、あつ」

ひんやりと家のなかから漏れだす冷気が俺の首のうなじを撫でるのに、俺は、まさにアホみたいに驚いて、息を呑む。

「あなた？」

妻が、ふがない夫にたいして眼をぱちくりさせる。

「た、ただいま」

俺は、妻の顔を見て、いいかえした。

家のなかにあがると妻は、お気に入りのエプロン姿で夕飯の支度をしていた。

「今日は、素麺よ」

「ん、その前にビールっ」

俺は、妻に注文した。

「はいはい」

妻は笑って冷蔵庫からビールを取り出す。よく冷えたビールを飲んで、俺は、ほっと一息ついた。

「あー、そうだ。明日は休みだし、二人でどこごろするか？」

「なに、そのふがないこと」

「だって、あちいしさ」

「私、川にいきたいわ、それとも海とか、いいわね」

「絶対にだめだっ!」

俺は怒鳴った。

妻がきよとんとした顔で俺を見た。

「俺、泳げないの知ってるだろう」

俺は、金槌なのだ。今も昔も、泳げたためしがないことが俺の最大の恥じだ。

小学生の頃は、そのせいで、先生に呆れられて、放課後では補習をやらされたが、結局は俺の泳ぎは、いつも「溺れる人」のまま進化していない。

「あ、そうだったわね」

妻は、くすくすと笑いながら俺を見る。俺は素麺を口いっぱいにほうばった。夏は素麺にかぎるとはよくいったもんだ。

「スイカもあるわよ」

「ん、食べるぞ。外は暑かったからな」

「そう。けど、今日はどちらにいったの?」

「あ、墓参り」

口にしてから、しまったと俺は自分の言葉を後悔した。

「お墓? まあそうだわ。私、お墓参りいっていなわ。ひどいわ、

一人でさっさといってしまっなんて!」

妻は本当に怒ったといたげに綺麗な眉をつりあげて俺を睨んだ。

「すまん」

「もう、私は、メシ炊き女房じゃないのよ。いつも勝手に決めてしまっ

そういいながらも、妻の口元が笑っていた。そこまで怒ってないよ。よかった。ただ俺をいじめて楽しんでいるのか。妻のそういうお茶目なところが俺は好きだ。

「わかってるって、あ、風呂はいるか。一緒に」

「もう、馬鹿ね。布団しいてきますよ」

妻の背を見て、俺は一つのことを思い出した。

そつちにはあるのだ。妻に最もみせてはいけないものが
「だめだ。そつちは」

俺が、止めるよりも先に妻は寝室にはいった。そして、見てしま
った。この世で一番みてはいけないものを

「あつ」

妻はなんだか抜け声をあげて、そして、ゆっくりと俺を見やる。

「ごめんなさい」

「いいんだよ」

俺は力なく笑って言い返した。

「私ったら、少し抜けてるわよね。いつも」

「いいんだ」

俺は困ったように、それでも微笑んだ。

少しばかり抜けている、そんなところが好きだった。だから、き
つと今日も……

「ごめんなさい」

妻は、そういつて消えた。

とたんに、冷房のない部屋には咽るような蒸し暑さが蘇ってきた。
ぱらりと、床にエプロンが落ちたのをそつと手にとって握り締め
た。

「かくしときゃよかった」

俺は、自分の迂闊さを呪った。

恨めしげに寝室の隅に棚におかれている妻の位牌を見た。

今日は、去年の夏に川で溺れ死んでしまった妻の墓参りをしてき
たのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3362p/>

夏の風景

2010年12月6日04時42分発行